クラウドファンディングのご案内

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

For the future of children

事故で夫を亡くした研究者が

子どもの危険を学ぶ本をつくる

寄附募集期間：2020/6/30（火）PM11:00 まで

祖父母の子育て知識は今の社会にマッチしている？

育児に不慣れなパパにもポイントを伝えたい！

見まもることは子どもに近づく危険因子を見極めること

子どもの発育によって危険認知に差がある！

効果的な声かけとは？

子育てに欠かせない知識に、
誰もが気軽に「繰り返し」触れられる
「本」を届けたい！

写真はプロトタイプの為、実際の製作物とは異なります。
予めご了承ください。

「知る」ことで防げる事故がある
岡 まゆみ

子どもの不慮の事故が、少しでもなくなりますように！
中井 宏

みなさまのご賛同を子どもたちのより良い未来に!!

私たちの取り組みの概略

Step1　調査費用（達成）	第１目標 100万円	子どもの事故予防についての研究・調査
Step2　書籍データ（電子データ）制作費用	第２目標 250万円	調査データと、子育て中のパパママの生の声を反映させ、楽しんで学べる事故予防の本をつくります。（電子書籍）
Step3　出版費用	第３目標 500万円	事故予防の本、出版へ 将来的には、各自治体の、乳幼児健診時に配布される「ブックスタート」の中の一冊として入れていただける本を目指します。

プロジェクト詳細、子育てに関わる方が知っておくべき知識を分かりやすくまとめています。

https://readyfor.jp/projects/bookstart

プロジェクトメンバー

大阪大学大学院
人間科学研究科安全行動学研究分野特任研究員

岡　まゆみ　2児のシングルマザー 1980年生まれ

奈良女子大学卒業後電機メーカー勤務を経て中学高校国語科教員となる／2012年大阪府内の河川敷をジョギング中の夫が、川で溺れていた見ず知らずの小中学生を見つけ、救助中亡くなる／2013年現研究科大学院博士前期課程入学、2016年修了後現職／「子ども安全研究所ひなどり」代表

大阪大学大学院
人間科学研究科准教授

中井　宏　2児の父 1982年生まれ

2010年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了／同研究科助教、東海学院大学准教授を経て2018年より現職／近年、安全教育プログラム「ひなどり」の開発・実践や日本交通心理学会　学校・家庭部会「家庭における交通安全教育に関する実態調査」への参画等、子どもへの安全教育研究を精力的に行う。

For the future of children

〝子どもの危険を学ぶ本をつくる〟取り組みにご協力ください！

大阪大学 OSAKA UNIVERSITY

子どもたちの安全のために〝子どもの危険行動〟を「知ること」が重要です！

子どもの特性

「衝動的に振る舞う」
→夢中になると周りが見えなくなる、興味があるものに一直線

「車の直前・直後を通る」
→車が動き出すことを知らない、
ドライバーに自分が見えていないことがわからない

「左右確認ができていない」
→視野が狭いので大人よりも首をひねらなければ左右が見えていない、
何のために、何を見なければいけないかが分かっていない

事故事例や、事故データを知ると、似た場面に自分が遭遇した際に注意しなければいけないことが見えてきます。
知ることで防げる事故があります。
私の夫は、川で溺れていた子どもたちの救助にあたり、中学生とともに亡くなりました。
事故が大きいほど、当事者と周囲の人の一生は一瞬で変わってしまいます。
悲しい思いをする人が一人でも減ることを願っています。

岡 まゆみ

子どもはどれだけ言っても
道路にとび出すので怖いですね。

子どもの歩行中の交通事故には、「とび出し」や
「車の直前・直後の横断」といった、
大人にはあまり見られない違反が目立ちます。

見通しの悪い所では止まって
左右を見るように言っても、してくれない！

実は、「見通しの悪い場所」が分かるのは、大人が思う以上にずっと先。「左右を見る」のも、「何のために、何を見なければならないのか」まで教えないと分からないんですよ。
「よく見て！」と叱っても子どもに通じていないかもしれません。

これから暑くなり、
水遊びが楽しい時期ですね。

浅い川だからと安心してはいけません。
川は場所によって流れが変わり、くるぶしくらいの深さでも流される危険があります。
平成30年、水難で命を落とした子どもの約半数（10人）が河川での事故でした。
地元の人がいかないところに、
現場の危険を知らない観光客が入って行って
発生する水難事故が毎年起こっています。

子どもには自然に親しんでほしいと思いますが、
保護者の情報収集やライフジャケットなどの備えが
大切ですね！

税制優遇について

大阪大学へのご寄附については、税制上の優遇措置が受けられます。

個人の皆様

所得税の軽減

住民税の軽減

法人の皆様

大阪大学への寄付金は、法人税法上の指定寄附金（法人税法第３７条第３項第２号）として財務大臣から指定されています。具体的には、寄付金の全額を、一般の寄付金の損金算入限度額と別枠で、損金算入することができます。

詳しくは、サイト内「税制優遇について」をご覧ください ▶ https://readyfor.jp/projects/bookstart

応援メッセージ

大阪大学大学院
人間科学研究科
研究科長・教授
臼井 伸之介

1歳から9歳までの子どもが亡くなる原因としては「不慮の事故」が常に上位にあり、死亡に至らないものまで含めると、事故は日常生活の中で多発しています。少子化が進む我が国において、「子どもの安全」が重要なテーマであることは言うまでもありません。一昔前までは、事故は「たまたま起こるもの」であるとか「全く予測できないもの」であると考えられていましたが、事前に適切な予防策を講じることで防げた事故が多くあることが分かってきました。

本研究科安全行動学研究分野では、これまでにも小学校での事故防止を目指して、事故原因や特徴を分析し、安全教育プログラムの開発・実践を進めてきました。ただし子どもの事故防止には、学校だけでなく家庭の役割も欠かせません。また未就学児へのアプローチも極めて重要です。

研究で得られた「知」を実社会に還元することを「社会実装」と言いますが、本研究科としては、社会実装研究をまさに推進しているところです。今回の取り組みは本研究科初めてのクラウドファンディングと聞きました。社会的意義の大きい本テーマに詳しい岡さん、中井先生らの研究に期待しています。皆さまの多大なるご支援を切にお願い申し上げます。

帝塚山大学学長
（心理学部教授）／
日本交通心理学会 会長
蓮花 一己

1960年代から日本のモータリゼーションが急速に立ち上がるとともに、交通事故の死者が急増し、「交通戦争」と呼ばれる時代がありました。その際には、大勢の子どもたちが事故の犠牲になり、人々の懸命な努力によって、事故は減少し、子どもの被害も当時よりはるかに少なくなりました。
しかし、今でも子どもたちの事故をゼロにすることは実現できていません。2012年に京都府亀岡市で発生した通学路の事故では児童2名、保護者1名が亡くなり、昨年（2019年）に滋賀県大津市の事故でも保育園児2名が死亡し、多くの負傷者が出ました。ひとたび事故が起これば被害者のご家族の悲しみや苦しみだけでなく、様々な関係者にも深い傷が残ります。
新型コロナウイルスの流行により、子どもたちは通学通園できない状況が続いていますが、それは、子どもたちが交通安全教育をきちんと受けられていないことも意味しています。事故を防止するためには、子どもたちへの働きかけのみならず、保護者や保育士・教諭によるしつけと学習、地域の関係者の取り組みなどの協働が求められています。
今回のプロジェクトは必ずしも交通事故防止に特化した教材ではないとのことですが、保護者や学校・園の関係者が交通安全教育を実践する際にも有用なものであり、事故防止への素晴らしい取り組みです。皆様の応援・ご支援を心よりお願いいたします。

プロジェクト詳細 、 子育てに関わる方が知っておくべき知識 を分かりやすくまとめています。

https://readyfor.jp/projects/bookstart

お問い合わせ先/jikoyobou@gmail.com （担当：岡）

発行責任者：岡　まゆみ・中井　宏